

されば今日の議會は、陛下の大政を翼賛しまつる「京」内の一機關たるに過ぎないのですが、若し誤つて議會中心の政黨政治或は獨裁政治ともなることあらんか、これ執權議會・幕府政治への墮落で、共に許すべからざる大違憲であります。我が國に在つては、上御一人の下、國民各自が悉く、「我こそはこの立場に於ける時代指導の責任者なり」と云ふ自尊心と熱意と氣魂とを持つて、各自の最善を盡しつゝ、一億一體となつて極力補翼し奉るべきは、國本自明の天則であります。

斯る天祖信仰の宗教を奉ずる我國に於て佛教が國教となつたのは、兩教が餘りにもその歸趨が類似否な同一であつたからであります。その俗耳に氷炭相容れぬ様聞えるのは「御飯」と「ライス」とを音響によつて別物と考へ、文字に捕はれて、「自由教育制度」(授業料なしに就學を強制する制度の直譯)を、「自由」とは希望者のみを教育し希望せぬものには就學を強ひず就否は本人側の自由意志によるべきものと誤譯したのと同様です。此の點は東大寺の大佛が、梵網經に據れる象徴なることを知れば疑團氷解され、我國信奉の大乗佛教の如何なるものかも亦その概略が分りませう。

梵網經には、「我今盧舍那(遍一切處と譯す、智理不二の法身佛たる大日如來(弘法の附したる譯語)(法身佛は智慧窮極・慈悲圓滿・光明無邊・壽命無量即ち眞善美の絕對根源としての理想佛)方坐蓮華臺。周匝千葉上。復現千釋迦。一華百億國。一國一釋迦。各坐菩提樹。一時成佛道。如是千百億。盧舍那

本身。千百億釋迦。各接微塵衆。俱來至我所。聽我誦佛戒。甘露門則開……再時釋迦牟尼佛。初坐菩提樹下。成無上正覺已。初結菩薩波羅提木父(菩薩戒)。孝順父母(生育)師僧(教養)三寶(本有の佛性と法身の慧命を開發)。孝順(道に順つて作意觀察し證入體達す)至道(古今に通じて謬らざ中外に施して悖らず人生のまさに斯くあるべき眞正の道)之法。孝名爲戒亦名制止」とあり、梵網戒が釋迦佛に源を發しないで、全宇宙の教主即ち眞理の象徴たる盧舍那佛を最初の說法者として大乘戒(一切の國土と社會と民族とに普通で宗教を離れ、凡そ人間として必ず受持せらるべき戒)の特長を談る一佛に發した戒、即ち梵網十重禁戒(官吏・上士のため佛教の極意)、四十八輕戒(一般民衆のため人間の務)が千と百億との釋迦に聽取され、夫々の異なつた國々に持行かれる形になつて居り、本體たる盧舍那と、迹・用・たる千及び百億の釋迦佛と合して三重の佛となるから、「三重本末の成道」(神・惟神・隨神)と云はれますが、梵網經が特にかゝる佛陀を説き、その間に説・聽の形式を設けたのは、能(説)所(聽)の對立する普通の説と聽とはなく、三寶一體なるを示したのであります。大佛建立時代には、三寶を「ほとけ」と訓んで「一體三寶」なることが示されて居りますが、「佛」(インド語佛陀の略・釋迦の體達せる精神内容・精神的醒悟)を「神」に書きかへて(神も佛も誠・眞の表象純粹なるものへの發展向上の暗示)御覺になれば、盧舍那が天祖即天皇に當り、以下命を奉じて教化・徳化して至道(皇道)を八紘に末廣がりのに弘布する有様と全く同一轍であります。佛教が皇室教とな

り國教となりしことは決して偶然ではありませぬ（我が國の寺は由來、君父への報恩のために出來た道場、忠孝本義のもの）。眞實にこの至道に御自ら孝順（自ら祀ることなくしてたゞ祀られるのみの神を認めず）にましまして親しく軌範を垂れさせ給ひ、以て八紘を教化・徳化せんとする大使命達成を御覺悟御決心遊ばされた第四十五代聖武大帝が、「ほとけ」（眞理・大慈悲心の異名）に絶對隨順、即ち至深至醇なる御熱誠が、圖らずも溢れて「奴」と表現遊ばされた次第と拜察され、有難く感激に耐えないところであります。我國の宗教は勿論、道徳・救済・文學・藝術・産業・其他萬般の文化乃至思想が、悉皆皇室に淵源し、皇室の御指導に依りて發達し、謂ゆる千と百億との釋迦（八百萬の神々）が大御心（惟神・大慈悲心）を奉體（隨神）して、率土の濱までその微塵衆（億兆）に働きかけ、驚くべき成果を收めたのであります。檀林皇后様の、「唐土の山のあなたに立つ雲はこゝに焚く火の煙なるらむ」の御歌にも、八紘光被の無邊の御思召が拜察されます。又聖武天皇が御讓位後にお書き遊ばされた御願文の中に、東大寺が盛んになれば天下盛んになり、東大寺衰ふれば天下も亦衰へんとの御意味の文句があるのを見ても、大佛建立が國土安全・天下泰平を招來せんとの大御心に出たことが明かて、迷信でもなく、惑溺でもありません。また第七十一代後三條天皇以來、御即位の時には高御座に登り畏くも御手に大日如來の智拳印（生佛一如・君民一體の深意を表象）並に四海領掌印（威稜赫々・持二十善・治天下を表象）を結び御口に眞言（國民の福祉・安寧・彌榮の深意を含む）を

唱ひ給ひて、我即大日の御自覺（惟神）の下に帝位に御就き遊ばされ、此の法は第二百一十一代孝明天皇に至るまで約八百年間綿々として御相承（隨神）遊ばされたと申します。従つて其の後純乎たる大和民族の間より幾多の名僧知識を出だし、國家の一大事變に際し、敢然矢表に立つた大忠臣も盡く佛教信徒中より出て、安全に日本佛教が建立され、國體の本義がこの世界無比の宗教的眞理に基礎を置くこととなりました。（新體制の確立にこの參考が無いと酒精分の抜けた「爛ざまし」に終りませう）。

佛教排斥に専念なりし近世までの國學者・神道家の態度は如何でしたらうか、その泰斗として崇敬措かざる學者達は、幕政暗黒裏に於ける町民や農民が、當時の日本人としてこんな深酷な壓制苦を甜めて來たのかと、身振する程の慘憺たる呻きの眞中に在つてさへ、勤王抑壓者たる家康をば、「東照る神の命の安國としづめましける御代は萬代」などたゞへ、怙然として皇道を裏切り、「神君」僭稱の大不敬罪を犯し、異母兄弟結婚を神祖の道と稱し、只管時世に詔諛是れ努め、明哲保身の生活戰術に汲々なりし様子が察せられます。

儒教は、身を修め人を治むる學問として道徳と政治とを兼ね教へ、一面に於ては吾等の道義的精神を闡明し、他面に於ては此の闡明に發揮せられたる道念に則つて、常に社會の制度組織を改善して行くべきことを説き、我が皇道を補益すること多大ではありましたが、儒教が、天は有罪

を討ち有徳に命じて主權者たらしめると教へるため、結果は其の逆即ち力さへ強くなれば、有罪者が却つて自ら有徳と稱して主權の讓渡を非望するに到り、そこに謂ゆる禪讓・放伐が行はれ、支那に在りては斯る易姓革命が終始反覆したため、「王侯相將豈有種」が國民の通念となり、我國に亡命せる儒者には、有力者を傀儡として自己の非望を遂げんとする者出て、其の感化と歸化支那人の煽動とに惑はされた蘇我氏をして、滔天の惡逆を犯さしむるに至りましたが、斯る危期に降誕せられた聖德太子は、神道即ち皇道を以て政治の根本主義とし、儒教によつて國民の道德的生活を向上せしめ、佛教によつて宗教的生活の醇化を圖り給ひ、佛教をば人生の歸趨たる世界最高の教として國教と定められ。斯くして太子は舊を失ふことなくして新を抱擁する同化歸一の精神によつて、相次いで入り來れる亞細亞文明の精髓を、我が國民生活に於ける適當局面に攝收・融和して、國本を培養され、後日西洋物質的文化に對する態度に於ける軌範を垂れ、謙虛にして而かも偉大な精神を以て、他の文化を自己の生命に攝收せんとする永久妙齡の氣風を作られました。尙ほ政治家は必ずや有徳者哲學者ならざることを道破されたのであります。我國政治家の服膺すべき千古の龜鑑でありませう。肇國以來「養正」・「八紘一宇」の聖慮の下に孕育された吾等には、幸にして此の龜鑑に背かざるべき先天的素質を有し。従つて刻下の世界的危局に際しても、先以て日・滿・支・を渾然融和し、尋いて世界をリードして、皇道の永久平和に入らしめ得

るとの大自信に據り、聖戰の眞意義を達成せしめなければなりません。由來我が國民は他邦移住の場合にも、三四の家族集まれば必ず神社の造營を始め、屋内には神棚と佛壇とを安置し、神佛の昭鑑を仰ぎ聖壽の萬歳を祝祈しつゝ進み來たのであります。

然るに吾等に示す世界の侵略史には、英の殘忍なる植民政策は勿論、米國の一貫せる對日政策も亦之に劣らぬ非道なることを示して居ります。又米國は恰かも自國だけが神聖なる國際的秩序及び條約に於ける守護神なるかの如く振舞ながら、國祖ワシントンの遺訓に背き、或はモンロー主義の範圍を越えて爲したる最も惡意の侵略、即ちその大統領マツキンレーさへ米國史上の汚辱とまで慚愧した「罪惡的侵略」によつて、ハワイ及びヒリンピンを領有し、又日本は米國に對しその強要によつて通商を創めたに拘はらず、爾來八十餘年の親交を續け、而もその間未だ曾て何等の非禮も侮辱も加へぬのみならず、彼の排日移民法の如き差別待遇をさへ甘受し、滿洲事變・支那事變・以來の、大統領以下有ゆる政治家・大官等の日本に對する無數の侮辱的言辭をも堪忍し、朝野共に特に十分の敬意を拂ひ來つた日本に對し、一言の斷はりもなく全く寢耳に水の通商條約廢棄の通告をなし、蔣介石を操つて抗日・排日・侮日・の擧を敢てせしむるなど餘りにも目下の國際的地位の優越觀にうぬばれて、自ら是非の判斷を誤りながら、獨善的に其の主張を固執して居ります。又他國を犠牲にするに非ざれば自國の繁榮を期し得ずとの修羅道觀念に支配され、そ

の觀念が國際間に於ける一切の對立争闘を激化する根原となつて、侵略戰・經濟戰・宣傳戰・スバイ戰・等々の一大錯綜が起り、茲に列國間の對立激化の世紀的惡因縁が果てしもなく流轉を續け、毫も自利々他・共存共榮の大道を知らぬ様であります。日本の大使命とする八紘一字は、心からの萬國協和による世界一家の地上樂園の建設を意味し、勿論、四海同胞・自他一體・大和共榮の眞如法界への徹底を前提とするもので、この見地に立つ日本には、最早・絶対に修羅道的對外政策が有るべき筈はありませぬから、支那事變の解決についても、之を直ちに八紘に推し及ぼして絶対に誤りなき態度に出づべきは勿論で、支那の主權を尊重し・領土の割讓を求めず・善意なる第三國權益の制壓をも求めず・等々の聲明は、絶対に支那及び第三國に不當の犠牲を強要しないことを公表せるもので、過去の如何なる大戦争の結末にも、斯くまで恩讐と對立とを超越し、斯くも公明正大な條件の提示された事は振古未曾有であります。先きの歐洲大戰後にドイツに對し苛酷なる重荷を課したヴェルサイユ條約と、我が近衛聲明（善隣友好・共同防共・經濟提携）との比較を見る者は、そこにヤソ教民主國たる英・佛・米・と、神國日本との國柄の相違を見、併せて兩者世界觀の當否優劣も亦極めて明白であります。

この程、支那答禮使招待會上近衛公の挨拶中に、「ここに御列席の閣下並に各位は、幾多の困難を克服して眞個の國民政府を樹立し、世界新秩序の建設に貢獻せられたのであります。その熱

意と勇氣とに對しまして深甚なる敬意を表するものであります。然るに新秩序建設の大業がやうやく軌道に乗つてまゐりました今日、時を同うしてヨーロッパに於いては再び大亂が勃發いたしました。惟ふにヨーロッパの大亂は、表面は頗る複雑多岐の如くありますが、その根底を流れてゐるものは功利主義に基く弱肉強食思想でありまして、この思想が斷絶せられ・東洋古來の道義を中核とする共存共榮の思想が發展擴充せらるゝのでなければ、人類は到底救はれないと考へるのであります。我國に於て今次事變を聖戰と稱し、幾多の犠牲を忍び、幾十億の財を費して戦つて居りますのは、かゝる眞に道義の上に立つ新秩序を確立せんがためであります。閣下並に各位の反共平和の建國運動も、この信念と拜察して居ります」とあります。

我々は支那の反省が不十分でも、米國が横暴でも、英國が非道でも、ソ聯が不都合な現狀でも、我が日本はどこまでも公明正大なる八幡旗（即ち日章旗）を押立て、惟神の大道を進まねばなりません。是れやがて、彼等を迷夢濁醉から覺醒せしめる所以の唯一無二の眞道即ち皇道であります。併し涅槃經に謂ゆる「獅子吼の諸相」（第一章參照）に於て、始・中・終、纖毫も缺漏があつてはなりません。ヒトラー總統は表面は機敏・果敢・斷行にして裏面は極めて細心且つ用意周到の武備・訓練なきものは文事だに全うすることは出来ませぬ。小事を侮れば大事も敗れます。仁者は敵を認めませぬ。獅子の「尾を振ひ聲を出す」は渾身是れ膽・通身是れ力・の態度であります。而かも「先

づ勢をなす」とは十分なる細心訓練を意味します。

歐洲の秩序が全く力の關係なることは昨日も明日も變りがなく、各國の國境は歩々悉く民族闘争の血が浸みこんでゐるから、舊怨を晴せば新恨を懐くことになり、既に二回の大戦争のあつた今世紀は、また三度目のも有るべく戦争世紀ともなりかねぬから、文と武と或は官と民との對立なき一億一心・體當りの覺悟をもつて、所謂「令を流水の源に下す」の一君萬民・高度國防國家的強力政治の新體制を創設して臣道實踐の具體的方式を明示し、國民全部が前途に一大光明を發見し、歡喜勇躍して以て世界の教化・徳化の燈明臺とならねばなりません。こゝに國防國家と申すのは政治・經濟・軍事・外交・教育・思想・國民組織等、有形無形一切を打つて一丸とし、常に指導統制的に運営して、其のまゝ戰時體制に移り得る如き、舉國一致・獨立獨歩・斷えず勇往邁進する國家の義で、我が國では永久的なる奉公滅私・萬民輔翼に歸趨します。

今次大戰に英國は先づソ聯を驅つてドイツを消耗させやうと企てが、スターリンに看破されて獨・英佛の戦争となり、ベルギーを最後まで頑張らせて獨軍を消耗しやうとしたが、レオポルト三世に看破され、尋いて盟邦佛國にさへ覺られてドイツの鋭鋒を一手に引受けざるを得なくなつた英は、降参するか玉碎するか西半球に落ちのびるか、日本が滿三ヶ年に亘つて全力を擧げて蔣政権と戦つてゐる事實を熟知しつゝ、有ゆる手段をもつて蔣介石を援助し、日本民族の華たる青

年の命を落すことに盡力しつゝあつたが、斯る行爲に終始しつゝ、無反省に過ぎし來つた國家に對し、如何に彼等の守護神として造り上げられ祭込まれた・ゴッドでも、彼等の勝利祈禱には、お頭を縦には振られませんまい。併し之は決して餘所ヨソごと視し・對岸の火災視してはなりません。易にも「霜を踏んで堅氷到る」とあります。併し外人政事は孰れも「うゐのおくやまけふこえて、あさきゆめみしゑひもせず」・「京」・「皇道」・「八紘一字」が如上の輪廻を解脱する所以の唯一の大道なることには氣附かぬ様です。こゝにも慈悲を根柢とする大和魂の發揮に、渾身(身心一如)即ち「鑊湯に冷處無し」の奮發を要することが覗はれます。

チャーチル英首相の下院第一回の演説要旨に、「予は既に予の内閣に参加したる諸氏に述べたと同様のことを、下院諸君にも述べんとするものである。それは予には國家に對し血と努力とそして涙と汗とのほかは何も捧げるものはないのだといふことである。吾人は實に最も困難な試練に突進みつゝあるのだ。吾人は尙ほ長期の苦難と悪闘とを前にしてゐるのである。諸君は予に對して政策を問はんとして居る。而して予は答へる、「戦はんのみ」と。陸に於ける戦・海に於ける戦・しかして空に於ける戦、吾人は全意力・全體力をあげるのみ。吾人は人類史上これを越すことなき怪異なる暴力と戦つてゐるし、そのことは吾人に力を與へるのだ。又諸君は予に戦争の目的を問はんとしてゐる。予は一言にしてこれに答へ得るものである。即ち「勝利のために」と。有ゆ

る犠牲を賭し勝たんとするものである。勝利への道は長く且つ苦しい、しかし勝利なくして生存はないのである。予は今や氣も輕やかに希望に溢れて使命を完遂せんと立向ふのである。予はこの時に當つて、國民すべての援助を要求する権利を有するものと思ふ。國民諸君よ。ガツチリと腕を組んで進まうてはいないか」とありますが。この戦時首相としての第一聲、英國議員ならぬ吾等日本國民も亦等しく喝采もし同情もしますが。しかし吾等は、チ首相にせめては萬分の一なりとも我が八紘一字の聖謨をかしこみ、八幡様の旗幟をおし樹て、進めがしと遙かに祈るものがあります。さもないと、「ヴェルサイユ條約」が今日の彼等に苦難と惡闘とをもたらした如く、英が後日・假りに彼等の希望通り「勝利」を得たとしても、力による覇者の勝利はやがて敗因を藏する修羅界の一幻相で、決して常住性でなく、「わがよたれぞつねならむ」の如く、他時異日また今日よりもヨリ以上の惡果を招來しませう。これは單なる想像でなくて世界興亡史による論理的推定なることは、英が援蔣抗日政策により間接的に日・支の無辜を虐殺しつゝある「怪異なる財力」の現状に目を閉ぢて、獨をのみ「怪異なる暴力」視する醉夢に徴して餘りある次第です。又之を思ふにつけ、畏くも八紘一字の聖旨の下に子育をいたゞき、「神ながら」なる聖戰に従事し得る、前線銃後に於ける我が同胞の至幸至福を感銘し聖壽萬歳を絶叫せずには居れませぬ。異教を奉ずる彼等は、始・中・終・「修羅界以下の輪廻」のために苦闘を反覆して永久の敵讐を作り、

佛教を奉ずる我等は、「眞如法界」の具現のために勇戦して、一體一心の盟友を増しつゝあるのではありません。

滿洲國皇帝陛下には日本紀元二千六百年御慶祝のため御訪日の御盛儀により、日本皇室との至高の御交驩及び皇太神宮（皇大神に非ず「太」には漢字に例なき絶対深遠なる神義を藏す）はじめ神宮・山陵への御参拜によつて、皇帝陛下には日本肇國の大精神の神髓を御感得あらせられ、畏くも皇陛下御自身の深厚なる御體驗と御信念に基き、報恩感謝の念を以て天照太神を奉祀し、御躬らをもつて國民民福を祈念遊ばされ、また四千萬民草が仰ひてもつて君德聖靈を體し、天照太神御加護の下に、各その分に安んじ、その業を勵み、道德の大本を涵養すべき旨の畏き帝旨に基き、今回建國神廟並にその攝廟たる建國忠靈廟を御創建とともに左記の如き建國神靈御創建の詔書を渙發あらせられ、五族協和を大目的とする滿洲國の指導精神をいよく固からしめ、民の歸一するところを奠めさせ給ふために、日本の神ながらの道を御遷しになり、滿洲國の國本は惟神の道なることを奠められ、國綱は忠孝の教を以て基幹となすべく、政教の淵源を御宣明あらせられたのであります。

詔書

朕茲ニ敬テ

建國神靈ヲ立テ以テ國本ヲ悠久ニ奠メ國綱ヲ無疆ニ張ルカ爲ニ爾衆庶ニ詔シテ曰ク我國建國ヨリ以來邦基益固ク邦運益興リ蒸蒸トシテ日ニ隆治ニ躋ル厥ノ淵源ヲ仰キ斯ノ丕績ヲ念フ皆

天照太神ノ神麻

天皇陛下ノ保佑ニ賴ラサルハナシ是ヲ以テ朕嚮ニ躬カラ日本皇室ヲ訪ヒ誠悃謝ヲ致シ感戴彌重ク爾衆庶ニ詔シテ訓フルニ一德一心ノ義ヲ以テス其旨ヤ深シ今茲東渡恭シク

紀元二千六百年ノ慶典ヲ祝シ親シク

皇大神宮ヲ拜シ回鑾ノ吉敬テ

建國神廟ヲ立テ

天照太神ヲ奉祀シ厥ノ崇敬ヲ盡シ身ヲ以テ國民ノ福祉ヲ禱リ式テ永典トナシ朕カ子孫ヲシテ萬世祇ミ承ケ無窮ニ孚アラシム庶幾クハ國本唯神ノ道ニ奠リ國綱忠孝ノ教ニ張り仁愛安ンスルトコロ協和化スルトコロ四海清明ニシテ篤ク

神麻ヲ保タム爾衆庶其克ク朕カ意ヲ體シ本ヲ培シ綱ヲ振ヒ力行懈タラス自強息ムコト勿レ此ヲ欽メ

御名御璽

康徳七年七月十五日

東洋永遠平和の基は、道義的東亞聯盟に在りとせる、支那派遣軍總司令部の闡明（聖戰の眞義）を左に御紹介申します。

「事變發生の根本原因は」、(イ)、東津に對する自覺の缺如。二千年來の友好關係を繼續して來た日支兩民族が近世に於てとかく非友誼的對立・抗爭狀態を現出した根本原因は、主として共に東洋人たるの自覺を忘却し個人主義的・歐米物質文化に眩惑したことに歸する。即ち支那の爲政者が事毎に歐米諸國に依存し、又我が國民は戰勝の地位に於いて侮支拜歐の弊に陥つたことが、期せずして今日の狀態に立到つた所以である。従つて兩國國民が共に東洋への自覺に於いて、日支關係の根本的是正を計ることが今事變の目的である。吾等は今や正さに東洋民族の先覺者として、東洋の自覺・東亞の再建・といふ歴史的轉機に直面してゐるのである。(ロ)、歐米諸國の侵略的策動。二百年前よりイギリスがインドを侵略（ヤン教徒を手先として）。更に百年前の阿片戰爭以來、漸次支那侵略の歩を進めて來たが、我國の蹶起と支那民族の覺醒とによつて、その露骨なる侵略方式を變更し、支那を援けてその統一に或る程度の助力を與へて、之が代償として財政上の實權を掌握し經濟上殆んど獨占的地位を占め、我國の進出に對しては對立の勢を示し、抗日政策をとらしめた。一方ソ聯は帝政ロシアの崩壊と滿洲事變の結果、支那殊に滿洲に扶植せる權益を

喪失したため、外蒙及び新疆省方面より支那の侵略と東洋の赤化を企圖し、支那民族運動に便乗して日本の大陸進出を妨害せんと試みた。イギリスが浙江財團を基礎とする國民黨内に勢力を占めて其の權益を擁護せんとするに對し、ソ聯は主として農民層にその勢力を扶植せんとするものであるが、この本質を異にせる二つの勢力を各背景とする國共兩黨は、犬猿同行・國共合作を以て今事變に臨んだのである。最近イギリスが日本に妥協的態度を示して來たことは利害を打算した結果による當然のことであるが、之に反し西北支那を根據とする共產黨は、重慶政府を脅迫して抗戰繼續の妄動をしてゐる。

「交戰の對象は何か。(イ)、抗日政權の迷妄打破。我が交戰の對象は、英・米・佛・ソの煽動に躍りつゝある抗日政權及びその軍匪であつて、決して支那の良民ではない。(ロ)、歐米諸國の對日敵性の本質。英・米・佛等の諸國が重慶政權を援助する根本目的は、前述の外日本の援助による支那の獨立解放を恐れてゐるからである。又ソ聯の企圖するところは、抗戰繼續による日支兩國・國力の消耗であつて、ともに道義に反し・打算に立脚するものである。

「事變は如何に解決すべきか。(イ)、事變解決の根本觀念。今次事變の本質は、消極的には日・滿・支・三國の安定確立に關する努力であり、積極的には東亞再建設への發足である。日・滿・支・三國の調整結合に關しては、すでに國策として善隣友好・共同防共・經濟提携の三原則が提唱され

て居る。この關係は東亞再建の基礎であり・模範でなければならぬ。(ロ)、日本は支那の統一強化を望むか。細分弱化を望むか。支那の獨立を脅威せらるゝことは東洋の平和攪亂であり、日本の脅威である。從來動もすれば、支那を細分弱化して之を操縦せんとする様な考を持つものが絶無ではなかつたが、之は支那を侵略せんとする歐米諸國の模倣であつて、斷じて聖戰の目的ではない。日本が、支那統一の民族的要求實現にかなる努力をも惜まざる大決心を固めた時に、はじめて日支善隣の結合は得らるゝのである。不當な利益を望み、或は支那を日本の植民地の如く考へるものがあれば、道義日本の本質に反するものであり。到底、天に愧ぢざる信念を持つことはできない。(ハ)、滿洲建國の根本精神を想起せよ。幾萬の尊い犠牲を以て生れた滿洲帝國は、民族協和の新原理による道義國家である。日本が滿洲國の健全なる發展強化に善隣としての道を盡したのは、内外齊しく知るところである。建國後の滿洲國は隆々たる發展を示し、世界動亂の渦中に在つて、四千萬の民衆のみは戰禍を受くことなく、その居に安んじ・その業に樂んでゐる。(ニ)、東亞新秩序と東亞の聯盟結成。日・滿・支・三國が個々に分裂抗争すればこそ、歐米に侵略搾取の機會を與へるか、三國が眞に結合すれば、恐らく世界いづれの國も一指だに染め得ることとはできないであらう。東洋永遠平和の基礎は、日・滿・支・三國の道義的結合の上に東亞聯盟を結成し、善隣友好・共同防衛・經濟提携・を以て三國國力の充實をはかることによつてのみ實現せ

られる。東亞聯盟の意義は東亞の安定と發展とを確保し、世界平和の再建に貢献せんとするもので、先づ日・滿・支・三國を以て之が基礎とするも、三國以外の諸國が之に加入することは、素より當然の發展として期待するところであり、歐米諸國にして之に偕行協力せんとするに於ては、勿論・喜んでその進出を迎へるものである。

「派遣兵は如何に行動すべきか」。(イ)、眞個の日本人たれ。陛下の萬歳を遺言とし東洋平和の人柱となつた十萬の骨の上に築かれるものは、皇道の宣布であり、東洋道義の確立であり、その結果としての東洋平和である。事變解決の根本條件は、一億の日本人が速に歐米思想(ヤン教内に孕育されたる)より覺醒し、日本の眞の姿を確認し、國を擧げて肇國の大理想實現に身命を捧げる決意を固める(大死一番)ことを第一とすべきである。東洋を東洋へ還す前に、先づ日本人が日本人に還らなければなりません。(ロ)、皇軍たるの本質に徹し、身をもつて道義を實踐せよ。皇軍の特質は、道義の軍として皇道を宣布することをその使命とするにある。十萬の英靈は、地下で我々の行狀を見守つてゐる。司令部や本部は率先して自肅・自戒、常に第一線將兵の上に思をいたし。第一戰の將兵は戰死した將兵に思をいたして、その身を正しく律することが、生き残つたものゝ當然の道である。(ハ)、敬・信・愛・もつて兩民族を永久に結合せよ。聖戰の出發點は歐米諸國の策動に利用せられて盲動する抗日政權を膺懲し、虐げられたる良民を救はんとする精神(慈悲

心)に立脚するものであるが、戦後に期待する日支兩民族永久結合のためには、さらに一步進んで支那民族の本質を正視し、その長所を見出し、之を尊重し、信を腹中に置くの雅量が必要とする。(ニ)、英靈を冒瀆すべき不良邦人を戒飭遷善せしめよ。大陸に進出した邦人のうちには、日本人の面汚しとなるものも少からざる現状である。十萬の英靈は、不良邦人が自分の懷ろを肥やすために日支兩民族を再び抗争に導く様な結果を見たら、地下で何と訴へるだらう。その骨の上に築かれる日支永久の結合を實現させることに全力を盡すことが、生き残つた將兵一同の義務であり、又英靈に對する最善の供養である。(ホ)、支那人の傳統と習俗を尊重せよ。日本人が眞の日本人であると共に、支那人が眞の支那人であることを尊重しなければならぬ。友好には寛容と同情とが必要である。(ヘ)、正當なる第三國人に對しては寛容であれ。本國非道の故を以て罪なき個人に報復することは皇軍將兵のなすべきところではない、若夫れ彼等の本國が聖戰の眞意を曲解し、東亞の攪亂を計るものあらば、堂々として國民の決意に於て破邪顯正・一刀兩斷の施策をなすものである。

「交代歸還兵に告ぐ」。歸還兵の言動が、日本の國內に與へる影響のいかに強いものであるかを深く顧みる必要がある。又潜行してゐる左翼運動も警戒せねばならぬ。若し英靈を冒瀆するやうな状態があれば、敢然起つて國內を導くの覺悟を必要とする。歐洲は第二の大戦状態である。そ

のために東洋に對する列國の干涉はやゝ緩和の状態にあるが、利害打算を信條とする歐洲各國が、打算のとれない戦争を永續するものと期待してはならない。いつ平和状態になるかも豫想できない。この秋において彼等が歐洲に得られなかつたものを東洋に求め、又第三國が連袂して對日干涉を試みることも當然豫期しなければならぬ。第二第三の國難が、内外西方面より神國日本への試練として加へられることを豫期し、挺身・難に赴くの準備を整へ、以て大元帥陛下の信倚に對へ奉ることが、十萬の英靈に對する何よりの供養である。とありますが勿論銃後皇民も齊しく深く銘記しなければなりません。

然るに大陸に流れ込む邦人中には不心得のものゝ多く自肅自戒が要望されつゝあつたが、北支軍當局は不良邦人の退去處分その他斷乎たる處置を下の如くとすることに決定されました。「北支軍當局談」。支那事變發生し占據地域の擴大に伴ひ、大陸に進出する邦人の數は加速度的に増加し、それ〴〵その地域と職分に應じて、明朗北支の建設に従事しつゝあるはまことに喜ぶべきである。しかれども一方に於ては數多きこれ等邦人中に未だ聖戰の意義を解せず日本人たるの自覺を缺くものも少なからず。折角心ある邦人の努力をも無にするのみか、かへつて明朗北支建設を阻害・破壊するが如き事象あるは遺憾千萬にして、この状態を放置するが如きことあらんか、聖戰の完遂は到底望むべくもない。こゝに北支軍は明朗北支建設の見地より、清純眞摯なる邦人を

擁護するとともに、不良邦人の取締強化を決意し、特に下記各項に該當するものにして軍占據區域内に在留せしむるは適當ならずと認むる時は、之を地域外に退去せしむることにした次第である。即ち 一、金融經濟攪亂行爲をなすもの。二、不正不當な利益を目的として不道德行爲をなすもの。三、公務員にして職權を利用し非道行爲をなすもの。四、その他公安秩序を亂し聖戰完遂上有害な行爲をなすもの。以上各項該當者にして特に不良なるものは、法規の示す所に従ひ在留禁止處分に附する手續きをとるものである。北支在留邦人は、本措置の趣旨をよく諒解し、興亞の先達戰士として聖戰を遂行するの氣魄と矜持とをもつて、明朗北支建設のため一段の自肅自戒を切望するものである。とあります。(ドイツでは國策の根本に觸れる犯罪は、之を叛逆罪と見做すため、統制經濟違反者には死刑宣告)

今次大戦に、ドイツの餘りにも果敢なる進撃の裏には、何か恐るべき新兵器が使用されて居るのでないかと、世界中の専門家が血眼になつて知らうとしたが、理想としては古くから有つたとしても、それを現實にまで徹底漕ぎつけた所にドイツの偉大さが有るのでありませう。人間の智慧は内外・古今を通じて大差はないが、唯だその理想を實現するやり方に、バラ〴〵にやるか組織的にやるかによつて、結果に非常な距離を生ずるので、この點についてドイツは實に能く人を活かして使つてゐます。朝から晩まで仕事をすることもなく、高い給料を拂つて遊ばせて、何か突飛

なこのみ考へさせる一團が有り、又その空想を選択して、多少・實現性のありさうなものを識別させる一團があつて、それが圖面となり、いよ／＼工場て試作させる仕組になつて居ます。

(醫藥・染料・其他の平和工業も同様の仕組)。それで一人の空想家が夢に描いたことでも、兎に角一應は科學的に研究される、初めから技術家のみをいくら集めて研究させても、一定限の域内を彷徨するだけで大發明は生れない。それで夢と實現とをかういふ風に結附けてゐるのです。斯くすれば日本でも必らずやドイツ以上の新兵器(一般創造物資も)が出来ると思ひます。併し發明發見に對しては、國家の大きな力で、モット／＼助成していただきたいものです。

ドイツは相手國が即座に爲し得ない完全な國家統制機構をなして後、今次の戦に臨んだ。(極小の力で全生産設備を驅使し、驚異的な總力を創造。戦時敵軍により遮斷の恐ある生活必需品の自給を計る)戦時に於て軍需工業に轉換し得る生産財工業(鑛業・金屬工業・化學工業・電気工業・自動車工業・建築業等)力は、英佛合計の一〇五%のこと「謎の兵器」をふんだんに創造し、「魔法の杖」以上の威力を揮つて居るのは當然のことでありませう。今般我が陸軍では、世界最精銳兵器製作のため、民間科學者を總動員されることとなり結構至極と存じますが、無名有能者の詮索拔擢、特許・實用新案等の検討も願ひたく存じます。ドイツには早くより特許のブール制を完成し、英國も亦今度の戦争によつてブール制と強制收用とを行つて居ます。低物價政策と生産擴充を矛盾な

く遂行するには、技術を基として産業組合を編成替すると共に、技術の相互公開によつて生産性の向上を圖る以外にはなく。又國家に於ける統制方針も、技術方面を重視するときに始めてプランが完備し、何等の矛盾なしに遂行し得る筈で、技術參謀本部の必要性は全く茲に存するのでありませう。

由來發明は學者(官・富)よりも寧ろ無學者(民・貧)に多いのが常であります。大抵は思想の發芽、よくて早苗程度のもので、その成育を遂げ良結實を得るには、是非とも科學者と財力家とよりの十分な保護が必須條件なるにも拘はらず、我國には公私ともに殆んど全くそれが無く(名のみ有りて實なし)。無力者の發明は有力者の餌料となるのみであり、従つて發明研究者も秘密的競争心あつて、公開的協同心なく。小成に苟安して具不退轉の勇往心に乏しく、自己の名譽・利益に偏重にして、國家・社會を輕視する等、ドイツには勿論他の諸國に比し著しく見劣りするの、誠に遺憾至極と存じます。

ベルリンからの某新聞特派員からの報告を拜借しますと、「ドイツの綜合國力の充實せることは實に驚嘆に値するものが数多いが、第一には飛行機だ。型は英佛のよりは小さいが力が斷然違ふ。空軍で敵艦を海岸に近よせないのは、今次戦で初めてドイツが完全に實證した。第二には戦車と大砲だ。第三には爆彈と砲彈だ。第四にはヒトラー總統が作戰の大天才だ。彼は前大戰當時

着て居た下士官の制服を着て、將軍連を逆さまに指揮してゐる。軍事專家が無理だと反對するのを押し切つてやらせる大膽さで、ズバリと思ひ切つた作戦に出る。飛行機によるノルウエーの敵前上陸・オランダの落下傘攻撃・聯合軍百萬の包圍攻撃、皆ヒトラー總統が單獨に決定したものだといふ。然しそれだけに總統の苦心は想像に餘りがある。非常な勉強家で、大は作戦から小は兵器の一つ／＼に至るまで、實に詳しく知つて居ると云ふ。兵の望みや心理にも、痒い所に手の届く思ひやりださうだ。總統自ら指揮するから、陸海空軍が渾然と一つになつて手足の如く動いて居る。即決即動、テキパキと行くところ聯合軍の比でないらしい。第五には軍人が良いことだ皆柔和な顔をして慎ましやかで、少しも威張らない。粗暴の振舞は微塵もない。カイザー時代の軍人とはよほど違ふやうだ。昔は外は勇敢で内は空虚であつた、今は外は羊の如くだが内に充實したものがあるやうで頼もしい。食物も士官も兵士も同じだといふ。士官と兵士は親子のやうで、軍隊は全く家庭だといふ氣持だ。戦地から歸つて来る人はドイツ軍の規律にみな感心してゐる。戰場に付きものゝふしだらさが少しもない。従つて占領地の民衆は即座にドイツ軍に依頼し、なつてくると云ふ。占領後の宣撫工作等行届いたものである。戰場で使ふ紙幣など、ドイツ本國のものと同じやうに手のこんだ立派なものが豫め印刷してある。占領すると即日、爲替率を公表してバツとバラ撤く。機械のやうにすべての組織が出来上つて居る。極端な金持や貧乏人はな

くなつて、皆健康な中流階級に變つて居る。血色がよくビチ／＼してゐる。切符制度であるが必要なものは皆有る。贅澤が出来なくなつただけだ。全く無いのはコーヒーと紅茶だけだ。パリ入城の時の有様も平常と少しも變らない、先づ全國の教會の鐘が十五分間續いて鳴り、それから家々が三日間國旗を掲げると云ふだけで、それ以外に何もない。嬉しさは内に秘めて、フランスの壊滅と對英作戦を深刻にみんな考へてゐる。決して空騒ぎはやらない。ドイツは全く頼もしいと思はざるを得なかつた」とあります。訓練の一朝一夕にあらざりしを偲ばしむるものがあります。又パリからの特派員の報道によりますと、「フランス人が過去に於て享樂したヨーロッパの最大の文化の華。即ちフランス革命以來彼等が自己の生命以上に愛した言葉「自由」と「平等」は、最早近き將來に再び彼等の上に歸つて來ないだらう。自由と平等の中に溺れ切つてゐたフランスは、新興ドイツの力の前に驚くべき脆さを以て屈伏してしまつた。フランス人の今後の運命を決するものは彼等自身の精神ではなく、實にヒトラー・ムッソリニ・兩巨頭の掌中に握られて居る。それは決して奇蹟ではない。歴史の歩みはいつの場合も公平であり、かつ峻烈である。パリ陥落前、このフランス民衆と・その政府と更にその軍隊と・の間に描かれた混亂せる道義の悲劇を目撃したものは、この爛熟せる文明を享樂せる國が、崩壞の一步手前に在つたことを改めて覺るのである。殊に北フランスを卷席してパリに入城したドイツ兵が、フランス兵の夢想だにしなかつ

た潑刺たる、而して新興國家の意識に燃える軍規の嚴正な青年隊であつたことを見たとき、フランス人自身でさへ、自國の士氣廢頽せる軍隊が、到底ドイツ軍の敵でなかつたことを覺つたのである。フランス人が自國の宣傳によつて信ぜさせられてゐた獨裁ナチス・ドイツの國內不安などは、ドイツ兵の上に微塵もその影を見出せぬので自分の目を疑つたといつた形である。戦争に強いばかりか立派な精神をもつてゐることを目前のドイツ兵から教へられた。ドイツ兵が掠奪や亂暴を働くどころか、敵國の首都攻略の手柄を誇りもせず、自分達に對して慇懃且つ鄭重・親切であると云ふ事實は、彼等にとつて思掛けない驚異である。そして敗戦國民としての不満と諦めの吐け口を、政府への攻撃と英國に對する極端な非難の中に見出してゐる。即ちフランスの對獨政策を誤らしめて戦争に驅りだした張本人こそイギリス人であると云ふ非難が、日とともに強くなつて來た。殊に獨軍占領下にあるパリの民衆の間にはこの傾向が強い。即ちフランス政府は飽くまでパリを死守すると云ひながら、コソソリ自分達を見すて、逃出した。これまでフランス政府の發表は、戦争の真相を傳へず、ゴマカシの連続によつて正しい事態の認識を誤らしめ、結局民衆の期待を裏切つて、フランス全土の犠牲に於てドイツに降伏せざるを得なくなつたといふ不満が一つ。今一つの不満は英國こそ怪しからん、英國の國境はライン河にありと稱しながら、形勢不利と見るや大陸派遣軍をアタフタと英本國に引揚げてしまひ、自國の防衛にのみ汲々として瀕死

のフランスを見殺しにした。かつてヒトラー總統はフランスと争ふ意思なきことを開戦の當初に於て屢々言明したが、その當時フランスを使喚して飽くまで戦争に驅り立てたのは英國であつた。フランスは英國の大陸に於ける番犬に過ぎなかつた。英國こそフランスを敗戦に導いた元兇であると云ふ對英攻撃が、今やフランス民衆の輿論となつてゐる。之は少し身勝手な議論で、深く降参したと云ひ切れない西洋人一流の自己辯護に過ぎないが、斯くハツキリ敗戦を宣告されたに拘らず、口惜しい残念だといつて唇を噛みしめ心から泣いて居る涙を一滴も流してゐない。高度に爛熟したフランス文明は、戦争に對する健全な感覺を魔痺されてしまつたのか、所謂パリの女性が、善良不良の別なく又一人の例外もなく、眞ッ晝から口紅をつけ・白粉塗り・顔を人形のやうに色彩つて、ドイツ兵見物のため、パリの大通りを流して歩いてるのを見ると、これでは戦争にまけても仕方がないと思はせられる。戦争に勝つたベルリンの女の方が、ずつと戦争に負けたやうな恰好をしてゐる。パリ女が口紅と白粉とを落さぬ限り、フランスの再興は不可能だらう」と申します。我が國未曾有と稱する大事變中の今日、尙ほパリ女もどき姿が街頭にまだ絶えないやうですが、今日の如き虛榮女のために國家が災さるゝことは、フランスに限つたことでは決してありませぬ。國防と女子のお化粧とは、如何なる關係かを内面的に考慮指導さるゝ婦人團の現はれを切望いたします。(男子間にも)。

某新聞紙の記事を拜借しますと、「官吏の放心状態・教員の素質低下等、ローズモノ山積の非戦時體制が、よくも無反省のまゝで今日まで放任遺棄されてゐたかと思議に思ふ（爲政者怠慢）。斯る官吏・教員の再教育を必要とするに至つたのは何よりも國民教育の出鱈目であつたことを物語るものであらう。従來の教育は、榮達主義（地位と収入とを目的・名と利とを目指す）（學問至上主義・國家を輕視する）（出身學校による資格獨占）の教育であり、職業意識に於て缺くるところなしとするも、國家觀念（人柱・縁の下の棄石たるを厭はぬ）と遊離して終ふ様な制度が、文化主義の名に於て強調されたからである。勢い官吏でも教員でも個人主義的にならざるを得ないのだ。倫理觀念の根本的變革は、臨時間に合せの設備や注入主義によつて萬全を期するわけにはゆくまい。云々」とあります（ドイツ今日の強大は勤勞教育が主因）。又大作戦には個々將兵の強弱の重要さよりも、裝備の優秀と適切な統帥と運用とによつて決すると申します。

ドイツ國民學校では、模型飛行機の製作が必須科目で、第六學級（十一歳）から始めます（科學的航空技術の習得は青少年期をばづしては我がものとならぬ）一つの模型飛行機を作るにも數人が必ず協同して行ひ、科學思想・航空思想の普及と同時に、協力精神の培養に努めます。教師は生徒の作つたものを視まわり、理論と實際とを指導し、出來上がったものは小型風洞を使つて氣流検査を行ひ風壓と機體の重心が一定して居るかを調べます（缺點を科學的に發見し解決す）。又之を飛ばし

に行く時にも、修繕用の道具と材料を修繕車に乗せて協力してやります。時々ヒトラー・ユーゲント飛行士隊團體で三日間も續いて競技會を開き、集團的にテントを張つて野外生活を樂しみ、愛機の羽ばたきを仰ぎ、航空への憧憬と健康増進と、集團生活の體驗と、科學思想の涵養と、を一度に體驗するので、ドイツ青少年は物資不足のため極度に切詰めた生活させられても、若さに満ちた樂しさを持つて居るとのことです。（ドイツ文部大臣一九三四年航空大臣と協同してドイツの總べての學校に於て教育部門及び年齢の如何を問はず、航空教育を行ふべき事を訓令）。（米國では小・中・大學の入試に必ず飛行機問題を出して徹底を圖る）。

戦闘に於ては精神力七分・技術三分であるので、戦闘機は日本人のために作られた武器だと外人の申す位。大和魂が役立ち、また國民性と食物の關係から航空病にかゝる率が日本人は極めて少なく、體重の軽いことも有利だと申します。又大政翼賛會常任總務會では、まづ青年訓練問題を取上げることとなり、青年訓練方法を一變して航空と科學的の訓練を行ふと云ふ根本方針を決定されました。

ドイツに於ける教育は、全ての思索と行爲とに於て、奉仕的且つ犠牲的な民族第一主義を以て一貫し、國家の運命と不可分に結合されて居る政治的人格を養成すべき事を主眼とし、獲得された知識が血となり肉となり、後代不變に残るべき事を目指し、青年教育の三綱領として居るので

ある。即ち 第一に、體育を徹底的に且つ普遍的に盛んならしめ、身體の強健なる活動力に富む次代の國民を養成し、活動的種族の保存を期し。 第二に、志操堅固な、そして眞純誠實な朋友精神と、民族主義的祖國愛を青年に植附け。 第三には、技能・知的能力・判斷力・任務に忠實なる性格・を養成し、門閥・財閥・學閥を度外視して個人の能力に決定的重點を置いて居ります。「時局」とは「その時の世態」といふ限劃の意味でせうが、「局」を局子(ゲーム)の義として棋局の意味を持たせますと、局面(事物の成りゆきの状態)の語が時事を表はすこととなりませう。修羅界そのまゝの現下の外交はまるで奕棋同様で、「後手」は到底「先手」に勝てませぬが、「抗議申込み」の九分九厘までは外交上の禁物たる「後手」でありませう。若しも戦争なら、不用意からの「後手」は敗軍を招き、領土住民を失つた上に、眼玉の飛出るやうな敵の戦費までも負課されます。正しき論理も敗者がいへば物笑になるまでです。始・中・終・盤面一ぱい・残る限なき眼配り・沈着と機敏・先きの見透し・リード精神・無理せぬ注意・根氣強さ・等々・「上手」「名人」の様子は爲政者の規範ともなるべきものが多々ありませう。近代の平和は武裝の平和で、常に局面に向つて對峙して居ることを寸時も忘れてはなりません。今若し「上手」の棋客に「名人」の助言(岡目八日・上意下達・下意上達・軍官一致)があるとしたら、それこそ古今無類の名譜の出來上ることは自明な譯ですが、私が先年小部分ながらドイツの銀行役員關係を調べたところによりま

すと、頭取は大抵四五十臺で最も働き盛りの人、監査役は一度頭取若しくは相當高位にあつた人(別に科學者の下僚多し)で、頭取も大事件は必ず監査役の承認を経て後實行し、監査役は少しも干渉がましきことなく、ひたすら從來の聲望と手腕とを利用して、陰に陽に頭取の活動奏效し易い様努力して居る有様は、恰かも「上手」に「名人」が助言して居る様だと考へられました。我が官・公・私・の事業に於ても「面子」觀念に捉はれずに、苦勞人・無名有能者(名人・恩給生活者)と當事者(上手)とが、心からの協力をして居つたなら、我國の如く山岳多き(材源・水源)瑞穂(多雨多濕)の國で、米や木炭や(電力も)生活必需品に缺乏の歎聲が擧がる筈はありません。我國に旱水害の有るのは天災でなく、官民不注意の結果であります。

ドイツは古來森林を尊重し、ヒトラー總統は更に戰場林・國境林として或は都市並に工場のもも有效なる防空兼保健林として企畫を完遂し。イタリーは森林を荒廢に任せ住民の性質まで悪化したが、ムツソリーニ治下になつてから森林軍隊を組織し、學校樹祭日をも法律で制定しました。最後に「いろは歌」を綜括的に御話いたします。

(第一章) 「諸行」即ち宇宙間一切の事物に於て、眞に文字通りに「同一」な物も事も決して無い、而もそれ等は皆因と縁とによつて斷えず變化しつゝあるのである。因縁生なるが故にその一切は人心の働きによつて左右可能のものである。然るに心は一切の靈智・靈徳・を潛藏する如

來藏であるから、「一切唯心造」と承知して、國家的立場から見た科學精神を強調して一粒・一毫・一滴の微といへども最善方法により、増殖・活用・改良・して、瞬時も休止・退轉してはならぬ。我國は物資も十分でなく、科學に於ても未だレベル以上には進歩して居らぬ、剩さへ四周は怪異なる暴力と怪異なる財力とにより圍繞されて居る、相異なる異質文明の鬭争眞つたゞ中である、油断してはならぬ。「諸行無常」には廣大無邊なる積極的方面が有る。如何なる困難をも乗越(度)えて勇往せねばならぬ。苟安と油断とは絶対禁物である。モルトゲ將軍は、「要塞の歴史は降服の歴史だ」と申しましたが、難攻不落を誇れる「マヂノ線」にも、突破さるべき弱點(士氣と共に)がありました。決して餘所事と見過してはなりません。「ス、メ」。「羯諦」。

(第二章) 「諸行無常」を更に人生から見れば、生滅・強弱・盛衰・等々・は孰れも兩者對峙上の必然的變遷たるのみならず。單一の如く見える生そのもの滅そのものも共に變遷的現象に他ならず。人心によつて左右し得る餘地十分なるものである。虛弱・低能・不具・性癖・災難・等々・人生の不幸と見らるゝものゝ總てが「増上縁」となり、同時にそれ等の逆、即ち一旦の幸福觀が却つて終局の不幸となる例が極めて多い(哲學の人生觀)。「正しく高き期待」と「斷えざる強き努力」とて、一生を八絃一字の聖謨翼賛のために貫かねばならぬ。従つて教養・保健・榮養・經濟の上に周到なる反省と深甚なる注意とを拂ひ、不斷の改良進歩を要する。「ス、メ」。「羯諦」。

(第三章) 科學哲學が如何に發達しても、歐米の如き相對的生滅思想を基調とする以上、實際的にも國民的にも、永久に弱肉強食たる修羅道以下の輪廻を解脱し得ないから、絶對的大慈悲心に立脚する神の道・佛の教・に孝順し、八絃一字の御聖謨を唯一の指針として、教養にも・訓練にも・生活にも、歐米の有爲法上更に百尺竿頭一步を進めた無爲法皇道に、一億一體(君民合致の妙用)として邁進せねばなりません。「イザス、メ」。「波羅・羯諦」。

(第四章) 皇道に邁進するには、本來各自に具有する惟神の心・大慈悲心・浩然の氣をいよ／＼ます／＼養正して、行・住・坐・臥・苟くも偷安してはならぬ(一口爲斷一切惡・二口爲一切善・三口爲度諸衆生)油断が有つてはならぬ。行動を過つてはならぬ。「總ベテノ境ヲ乗越エテ」、時・處・位・に寂滅爲樂を得なければならぬ。少しでもお聲を据えりと臨濟の謂ゆる依草附木の精靈に墮落します。今次歐洲大戰に於いて、勝者並に敗者の與へて呉れた教訓は極めて重要です。「波羅・僧・羯諦」。

(第五章) 八絃には天壤無窮の寶祚を踐ませ給ふ「京」があり、その「京」の姿こそ皇國本來の永久不變の本體である。その本體に具有せる大和魂こそ、和魂・荒魂の融合せる大精神(十一回觀音)である。この本體・この精神により、世界を教化・徳化して至道を成就し、眞如法界即ち眞の八絃一字を具現するのが、我々皇民の一大使命である。是非とも之を完遂して無始

無終の聖恩に酬ひ奉らねばなりませぬ。「八紘一字ニ成リ遂ゲヨ」。「菩提・娑婆訶」。

「京」の代りに近衛信尹公は、「前三三・後三三」と書かれました。これは碧巖録第三十五則「文殊無着問答」中の語、謂ゆる「爛泥裏に刺有る」葛藤です、今次世局下、「政治・経済・文化・新體制」に「京」と併せ見る時、實に妙味を覺えますが、それは各位の御参究にお譲りいたします。

學國待望の外交轉換は左記要旨條約の如く廿七日の日獨伊三國同盟の、結成によつて遂に斷行され、歐洲と東亞に「新秩序建設のために戦争」を遂行する日・獨・伊・三國はそれぞれの指導的地位を承認し、相携へて、世界秩序建設と世界平和の實現に協力することとなり、畏くも卷頭に奉掲せる如き優渥なる詔書を渙發あらせられ、國民の進路を御垂示給はりました。官民一體・時艱を克服して、宏遠なる聖慮に應へ奉らねばなりませぬ。

第一條 日本國は獨逸國及伊太利國の歐洲に於ける新秩序建設に關し指導的地位を認め且之を尊重す。

第二條 獨逸國及伊太利國は日本國の大東亞に於ける新秩序建設に關し指導的地位を認め且之を尊重す（著者思ふ大東亞とは百八十度の子午線からインド洋にかけてならん）

第三條 日本國、獨逸國及伊太利國は前記の方針に基く努力に付相互に協力すべきことを約す

更に三締約國中何れかの國が現に歐洲戦争又は日支紛争に參入し居らざる一國に依て攻撃せられたる時は三國は有らゆる政治的、経済的及軍事的方法に依り相互に援助すべきことを約す。

第四條 本條約實施の爲め各日本國政府、獨逸國政府及伊太利國政府に依り任命せらるべき委員より成る混合専門委員會は遲滞なく開催せらるべきものとす。

第五條 日本國、獨逸國及伊太利國は前記諸條項が三締約國の各とソヴィエト聯邦との間に現存する政治的狀態に何等の影響をも及ぼさざるものなることを確認す。

第六條 本條約は署名と同時に實施せらるべく、實施の日より十年間有効とす、右期間満了前適當なる時期に於て締約國中の一國の要求に基き締約國は本條約の更新に關し協議すべし。

尋いて十月十三日近衛總裁は大政翼賛會發會式に於て「我が國は正に一大轉換期に際會し外に善隣との盟約を固うし、内に新體制を樹立し大東亞の新秩序を確立するともに、進んで世界新秩序の建設に邁進致さねばならない時が參りました、政府は聖旨を奉體し現時の國際情勢に鑑み高度國防國家體制の完遂に對して全力を擧げつゝあるのであります、高度國防國家の建設は政治、經濟、文化等の各局面において過去における一切の殻を棄て新らしき目標に向つて一億一心の協力體制を整備し又國家機構の各局面をして最も圓滑なる有機的廻轉をなさしめる事によつて初めて可能となるのであります、現内閣成立以來國內を擧げて新政治體制の實現に對し絶大なる共鳴

と協力を得ましたことは眞に感謝に堪へません、茲に本日大政翼賛會發會式を挙げ萬邦無比の國體に基き世界に比類なき理念の上に大政翼賛運動を本會の推進によつて發足するを得るに至りましたことは眞に御同慶に堪へない所であります。

申す迄もなく今や我が國は明治維新にも比すべき重大なる時局に直面してをります、我が大政翼賛の運動こそは古き自由放任の姿を棄て、新らしき國家奉仕の態勢を整へんとするものであります、歴史は今や我が國に對し重大なる時期の到來を告げつゝあります、大政翼賛運動の將來は眞に我が國家の運命を決するのであり而も本運動の遂行は容易の業ではありません、我々は前途に如何なる波瀾怒濤起るとも必ずこれを乗り切つて進んでゆかねばならぬのであります、本運動の發足に當り私はその推進的原動力となつてこの難事業の完成に協力せらるゝ役員諸氏に衷心より敬意を表するのであります、各位はこの重大なる使命達成のため挺身これに當られ大御心を安んじ奉り忠誠の實を挙げられんことを切望して止まざる次第であります。

●最後に大政翼賛會實踐綱領について一言いたします、これにつきましては準備委員會の席上において數次論議された問題であります、熱々今回運動の本質を考へみまするに本運動の綱領は大政翼賛の臣道を実踐するにつきるものと思ふのであります、臣道の實踐をお誓ひ申せば綱領も宣言も必要はないと思ひます、即ち大政翼賛運動の綱領は大政翼賛の臣道を実踐し上御一人に對し

奉り奉公のまことをいたさるゝことに私は決心いたしました、このことを付け加へて明確に申述べておきます」と挨拶されました。

尙ほも十一月十日には紀元二千六百年慶祝の式典を挙げさせられ、長くも優渥なる國語を賜はり、昭和の維新乃ち成り、「京」の意義が柄乎として闡明せられて我が國體の有難さに今更の如く感銘し、歡喜の涙に咽んで茲に「いろは歌」の本講話を了ります。

昭和十五年十二月二十五日印刷
昭和十六年一月一日發行

いろは歌講話

【定價金壹圓參拾錢】



著者

福井市志比口端日曹爽

伊藤宜良

發行者

東京市本所區吾妻橋二ノ二三

伊藤良次

印刷者

東京市下谷區御徒町二ノ七八

福岡一郎

福壽堂印刷所

發行所

東京市本所區
吾妻橋二ノ二三

大方工業理化研究所

電話墨田五九三七番
振替東京一九六三八番

409
567

終

